

コンチネンタル・オートモーティブ

ドイツの多国籍自動車部品企業、 横浜の“地の利”生かして新展開も

コンチネンタル・オートモーティブは、ドイツ・ハノーファーに本社を構えるタイヤ及び自動車部品の世界的メーカー・コンチネンタル社の日本法人です。コンチネンタル・オートモーティブは2000年12月、コンチネンタル社と日本の紡績大手・日清紡との合併会社として設立され、主に日本の自動車メーカー各社に向けて、ブレーキシステムの開発、技術・製品を提供するとともに、日本の道路環境や交通事情に応じたソリューションを提案しています。04年、都内から横浜市に本社を移転し、その後、開発機能から人事、ファイナンスといった管理部門も横浜に集約しました。



話し手：ベルトルド・ヴォーフラム社長



■横浜という“地の利”を生かしてビジネス展開

コンチネンタル社は、タイヤビジネス、自動車の部品を作るオートモーティブビジネス、インダストリービジネスという3つの事業を世界57の国・地域で展開しています。

その中で当社は、オートモーティブビジネスを中心に事業を営んでいます。本社の下にブレーキシステムやカーエレクトロニクスなど5つの製品事業部を擁し、さらに、お客様と一緒にアプリケーション開発を行うエンジニアリングセンターを設けています。横浜は、東京へのアクセスに加え、新横浜駅、羽田空港、首都高速道路ネットワークへのアクセスの良さが第1の利点として挙げられます。私たちのお客様である自動車メーカーは西日本から北関東と、様々な場所に拠点を構えているからです。さらにオートモーティブビジネスの本社は、横浜市とパートナー都市の提携を結んでいるフランクフルトに置かれています。羽田空港からフランクフルトまでは1日に複数のフライトが飛んでいます。

■日本の自動車メーカー8社と密接に協業

現在、世界の自動車業界は、環境や安全という観点から「100年に1度」と言われる変革期に直面しています。電動化と自動運転に向けた技術革新が日進月歩のスピードで進んでいるだけでなく、自動車のモビリティというコンセプト自体が変わろうとし

ています。

このような状況の中で私たちの強みは、タイヤから部品、カーエレクトロニクスに至る「車周りを全部知っている」点にあります。タイヤからソフトウェアまでをグループ内で一貫して扱えることは大きなアドバンテージであると考えています。安全に関してもコンチネンタル社は、交通事故そのものがない社会を実現する“Vison Zero”という目標に掲げています。まずは交通事故の死亡者をゼロにし、次いで負傷者をゼロにし、究極的には事故そのものをゼロにする。この目標を考えた際、自動車メーカーが8社も集積する日本は最も重要な市場の1つであり、当社はグローバルの中でもとても大きな役割を担っています。

■「I・TOP横浜」事業でも大きな手応え

22年7～12月に、横浜市の「I・TOP横浜」事業の一環として、当社の交通流観測用センサー（レーダー・カメラ）を用いた交通流観測の実証実験をみなとみらい21地区で実施しました。「インテリジェント・インターセクション」は事故のない交通社会に向けた協調システムの一例ですが、私たちの企業ビジョン「より良い明日のために価値創造する」をまさに体現するものでした。こうした取り組みも横浜に拠点を構えていたからこそ、実現できたものと考えています。

(取材日：2023年7月)

コンチネンタル・オートモーティブ株式会社

所在地：横浜市神奈川区新浦島町1-1-32 アクアリアタワー横浜

代表者：ベルトルド・ヴォーフラム

設立：2000年12月 事業概要：自動車部品メーカー

URL：<https://www.continental.com/ja-jp/>